

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.240
Apr, Mar, Jun, 2008

JID news

JID月報：通巻240号
平成20年4月・5月・6月号
発行日：平成20年6月30日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559
発行人：酒井 正人

目次

巻頭：理事長就任のご挨拶

社団法人日本インテリアデザイナー協会

平成19年度 第6回理事会報告	2
平成20年度 第1回理事会報告	5
第40回通常総会報告	8
本部報告(改革検討委員会)(総務委員会)	11
JID創立50周年記念事業実行委員会報告	12
トピックス	16
支部活動報告(関東事業支部)	18
// (中部事業支部)	20
// (関西事業支部)	22
MEMBER'S SALON	24
PUBLICITY EDITION	25

事務局からのお知らせ	26
新会員紹介	26

理事長就任のご挨拶



「これからのJID」発展への 「新たな魅力づくり」を

理事長 酒井 正人

このたび皆様及び理事会でのご推挙により、JIDの理事長を拝命することになりました酒井正人でございます。

今年JIDは創立50周年を迎え、皆様のご努力により企画されました様々な記念イベントが本格的に始動しております。また一方では、公益法人制度改革による公益社団法人認定に対する認定申請を行う年度でもあり、JID組織の今後を考える上でも、とても大切な時期に、理事になってまだ日が浅い私が理事長に就任することとなり、改めてその責任の重さを痛感し、心を引き締め会員の皆様のご期待に添えますよう頑張る所存です。

「継続は力なり」といわれますよう、半世紀にわたるJID活動はたいへん貴重な財産であります。そして、この50周年を期に「これからのJID」がさらに発展するために、ここで新たな展開を考えることも必要だと感じております。人材・組織・財務等のJID活動の基礎となる事項について見つめなおし、次世代の方々へ夢を与え、JID会員が活躍できる「新たな魅力づくり」の構築を検討すると共に、日本を代表するインテリアデザイナー組織として社会へ貢献し、世界へ発信する役割を充実させたいと思います。

会員の皆様、今後ともどうかご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



理事会

平成19年度 第6回理事会

(現役員・次期役員予定者合同会議)

日時：平成20年3月28日(金) 17:00～18:30

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

OZONE会議室

出席：理事長 川上玲子

副理事長 岩倉榮利、小宮容一

理事 安藤清、吉良ヒロノブ、酒井正人、
清家淳一、丸谷芳正、村口峯子、
山永耕平、山本棟子

監事 宇賀敏夫、川上信二

理事予定者 安藤眞吾、小野由記子、川崎泰秀、
阪井良種、佐藤健一、長岡貞夫、
中田重克

事務局長 峰尾武

I 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- [2] 平成19年度収支状況報告
- [3] 財務運営資金繰り
- [4] 会員異動状況
- [5] 次期役員予定者との引き継ぎ
- [6] 次回会議予定

II 議題

- 第1号議案 平成20年度収支予算案承認の件
- 第2号議案 JID創立50周年記念事業特別会計予算案承認の件
- 第3号議案 公益社団法人認定に対する申請承認の件
- 第4号議案 後援・協賛名義承認の件
- 第5号議案 会員入退会承認の件
- 第6号議案 議事録署名人選任の件

II 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(村口)

- 1. 支部役員会開催

新年度に向けて新支部長への引継ぎと、今期の反省点を討議した。

- 2. 広報委員会

広報委員会は個人ページ制作の準備がほぼ完了し、最後の確認作業に入り、4月上旬にUPの予定。

◆中部事業支部(安藤清)

- 1. 1月25日 インテリア互例会(イン産協vsインテリア連絡会—5団体)。
- 2. 1月30日 デザイントリプレックス反省会実施。
- 3. 2月～3月 JID中部学生賞授与(5校)。
- 4. 2月2日 JID中部vsACTchubu見学会・新年会実施。
- 5. 2月15日 第16回インテリアデザイン連絡会開催。
- 6. 2月18日 2月度役員会・連絡会開催。
- 7. 3月17日 3月度役員会・連絡会開催。
- 8. 3月12日 インテリアフェスティバル講演、佐戸川清氏(JID会員)実施。

今後の予定

- 1. 4月25日 第2回リレーセミナー
齊藤裕氏「日本建築～数奇屋の源流～」。
- 2. 5月17日 JID50th中部事業支部記念セミナー
テーマ「子育て世代の家づくりについて」「親と子のメンタルヘルス 子供の心を豊かに育てるために」
及びJID中部事業支部総会予定。
- 3. 6月24日 「イタリアと日本の家庭のインテリア」「こんなインテリアで子育て」「家族の家具」予定。
- 4. 8月2日 親子で楽しむワークショップ「お部屋のアートワーク」予定。

◆関西事業支部(清家)

- 1. 総務委員会
2月15日(金) 第6回運営委員会開催。
3月17日 臨時運営委員会開催。
- 2. 事業委員会
2月23日(土) 「ニュープロダクツプレゼンテーション」(新商品説明会)開催。
- 3. 研究委員会
2月6日(水) 第6回研究委員会開催。
3月1日～2日 佐川美術館・ヴォリーズ資料館及びヴォリーズ展、岡本本家酒造見学開催。
- 4. 情報委員会
2月15日(金) 第4回情報委員会開催(ECHO編集委員会)、2月20日 e-ECHO発行。
- 5. JID-ACT kansai 定例会及び新年会開催。

今後の予定

- 1. 総務・広報委員会
4月18日(金) 運営委員会開催予定。
6月7日(土) 支部総会開催予定。
- 2. 国際委員会
4月中委員会開催予定。
- 3. 事業委員会
次回「ニュープロダクツプレゼンテーション」(新商品説明会)開催準備及びフィンランドツアー企画。
4月11日(金) セミナー開催、パネラーにJID賞受賞者小笠原絵里氏・宮本佳明氏、コーディネーター安藤眞吾氏予定。

4. 研究委員会

「セカンドライフの住まい」研究会アンケート集計作業中。

5. JID-ACT kansai 定例会開催予定。

◆九州事業支部(山永)

1. 1月23日(木)～27日(日) 第3回「2007学生ファニチャーデザインコンテスト」をアクロス福岡1階アトリウムで開催、審査員に(株)丹創社・中田泰之、(株)アダル・鎌田豊也、(株)エーディコア・金子仁紀、(株)サカイ・堺道明、浜本康一、(株)添島商店・石島直樹の各氏で実施、トロフィーの協賛を(株)サカイ様よりご提供いただいた。

2. 1月26日(土) コンテスト審査会・表彰及び第3回例会と交流会開催。

3. 2月16日(土) 第4回例会開催、第3回ファニチャーデザインコンテストの報告。

今後の予定

1. 8月「畳・箸・団扇 新しいeco暮らし」仮称を50周年円座で検討。

2. 11月 歴史に座る「ウインザーチェアーの歴史」を九州産業大学美術館・国立九州歴史博物館・大宰府研修を含め50周年円座計画予定。

3. 21年1月 大川の賛助会員と学生・会員とのコラボレーションをファニチャーデザインコンテストと同時開催予定。

役員の選出決定

支部長:飯田一博、総務委員長:前崎彌生、特別事業委員長/教育委員長:山永耕平、国際交流委員長:江島太士、組織委員長/情報委員長:下田隆、事務局:菅原聖子

◆本部総務委員会(丸谷)

委員会2月19日、3月27日開催。

1. 2008年ニューイヤーズ&創立50周年キックオフパーティを1月11日に実施、総参加者112名(正会員70名、賛助会員19名、来賓11名、JID賞入賞招待者12名)。

2. ビジネスパートナーズについてE-mail newsで第1号「新年あけましておめでとう」を配信、参加賛助会員15社のコメント及びホームページ紹介。

3. 会員拡大推進について入会キャンペーン企画を検討。

4. JIDリーフレット改定の検討。

◆本部国際委員会(酒井)

1. 2月1日 JID創立50周年記念事業の取り組みについて検討、3月18日 2008年度委員会活動、次期委員長、APSDAに関し検討。

2. APSDA関連

3月20日 APSDA総会、22日・23日 コンgress開催、テーマはRealizing Design:Bridging the Gapで参加各国40分スピーチ要請があり、会員大野美代子氏に依頼(旅費、宿泊費をAPSDA負担)受諾。

3. APSDA総会へJID代表派遣、候補を小野由記子次

期国際担当理事及び次期委員長候補大森清次郎の2名とする。

4. APSDA総会及びコンgressの結果についてはJID News・E-mail news等で配信予定。

5. 次期本部国際委員会委員長に大森清次郎氏を適任者として依頼、受諾された。

6. 創立50周年記念事業セミナーに「木肌を知る ワークショップ」を準備中、ニシザキ工芸の協賛を得、開催日時、参加人数等調整中。

◆本部情報委員会インターネット(吉良)

1. JID賞ビエンナーレ受賞作品を「国内活動-JID賞」ページに掲載。

2. 創立50周年、人材育成「室内デザイン学校」デザイナーズトークツアー円座を掲載。

3. 創立50周年事業活動として「暮らしの原点」テーブルウェアフェスティバル(東京ドーム)を掲載。

4. 創立50周年「意見広告」環境を考えるの趣旨並びに素案を掲載。

5. 創立50周年、出版委員会広報として「出版事業計画」並びに趣旨を掲載。

6. ホームページのコンテンツ充実と支部ホームページとの連携推進。

◆本部情報委員会 JID News(清家)

1. JID News 239号 3月末発行。

2. 今後の予定

5月6日 編集企画会議、5月13日 原稿エントリー締切り、5月末 原稿締切り、最終 6月3日、6月17日 編集校正会議、6月末 発行予定。

◆事業推進(小宮、岩倉、吉良、山本)

平成20年度事業計画タイムテーブル(案)作成提示。

[2] 平成19年度収支状況報告(2月末)

事務局長より報告。

[3] 財務運営資金繰り 事務局長より報告。

[4] 会員異動状況 事務局長より報告。

[5] 次期役員予定者との引継ぎ

この理事会を持って次期役員予定者との引継ぎを行った。

[6] 次回会議予定

1. 平成20年度第1回理事会

平成20年5月30日(金) 12:00～13:30

2. 平成20年度第1回50周年実行委員会

〃 13:45～15:15

3. 第40回通常総会

〃 15:30～17:00

4. 関東事業支部第15回総会

〃 17:15～18:15

5. 第40回通常総会懇親会

〃 18:30～20:30

以上の1と2を当初の予定から入替。

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議題

◆第1号議案 平成20年度収支予算案

事務局長より予算案について説明、これに対して各支部、本部委員会の収支に関して再見直しを至急行い、赤字幅を縮小することとし尚且つ各事業支部に対する平成20年度事業補助費を20%削減することとし、最終予算案について正副理事長(新・旧)で決定する。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第2号議案 創立50周年記念事業特別会計予算案
創立50周年記念事業特別会計予算案について事務局長より説明、最終50周年実行各委員会より提出された予算を提示説明。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第3号議案 公益法人に関する事項

公益法人改革三法施行に伴い当協会として公益社団法人認定を受けるための申請を行う。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第4号議案 後援・協賛名義承認の件(5件)

- ・『第14回建築リフォーム&リニューアル展』 継続・後援
- ・『ATC関西学生卒業作品展Vol.13』 継続・後援
- ・『国際漆展・石川2009』 継続・後援
- ・『柳宗理展』 後援・新規
- ・『第66回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2008』 協賛・継続

以上5件について事務局長より説明、議長は承認を諮り異議なく承認された。

◆第5号議案 会員入退会承認の件

- ・正会員 入会(2件)

天野善啓(関東) 推薦人:村口峯子、峰尾武

赤嶺剛(九州) 推薦人:山永耕平、峰尾武

- ・賛助会員 入会(3件)

特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター

推薦人:小野由記子

株式会社シーズアイ 推薦人:小野由記子

株式会社イケダコーポレーション 推薦人:酒井正人

- ・正会員 退会(10件)

0009 福岡喜久雄(関西) 0650 丸山芳子(関東)

1229 香川深雪(関西) 1055 杉浦房江(関西)

1233 浅野秀代(九州) 0716 清藤佳余子(九州)

0682 十文字洋一(関東) 1024 住友雄治(関西)

0235 黒岩靖司(関東) 0509 夏原晃子(関西)

- ・正会員 退会(3件)

以下定款第8条2項(4)により退会したものとみなす。

0709 坪井源(関西) 1198 平井純(関東)

0991 藤川聴恵(関東)

- ・名誉会員 推挙(2件)

福岡喜久雄 1959年5月入会 在籍48年10ヶ月

黒岩靖司 1969年8月入会 在籍38年6ヶ月

- ・名誉会員 退会(2件)

0166 渡邊輝男(関東) 0047 金子誠之助(関西)

- ・賛助会員 退会(5件)

3172 株式会社トッパンコスモ 3117 松下電工株式会社

3190 株式会社ニッケーコー 3177 ラ・ヴィータ株式会社

3112 プラス株式会社

- ・名誉会員削除(3件) 不明のため

0236 宇佐美琢郎(関東) 0094 桜井定雄(関東)

0324 瀬十記夫(中部)

- ・報告事項(訃報)(2件)

大和保雄(関東名誉会員)

平成19年1月5日逝去 享年81歳

河原啓介(関西名誉会員)

平成19年11月21日逝去 享年85歳

以上について32件について事務局長より説明、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第6号議案 議事録署名人選任の件

議長は山永耕平、山本棟子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

社団法人日本インテリアデザイナー協会 平成19年度第6回理事会に関し、定款第26条に基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人が記名捺印する。

議長 川上玲子

議事録署名人 山永耕平、山本棟子

理事会

平成20年度 第1回理事会

日時：平成20年5月30日(金) 17:00～18:30

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

OZONE会議室

出席：理事長 酒井正人

副理事長 阪井良種、清家淳一

理事 安藤清、安藤眞吾、小野由記子、
川崎泰秀、佐藤健一、長岡貞夫、
村口峯子、中田重克

監事 川上信二、宇賀敏夫(欠席)

事務局長 峰尾武

I 報告事項

[1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

[2] その他

1. 関係団体役員への就任状況
2. JID財務その他の状況について
3. 会員異動状況
4. JID創立50周年記念事業特別会計財務運営資金繰り
5. 次回会議予定
6. 50周年記念事業エコ基金について

II 議題

第1号議案 平成20・21年度役員承認の件

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

第3号議案 会員入退会承認の件

第4号議案 議事録署名人選任の件

II 報告事項

[1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(村口)

1. 関東事業支部組織について

今年度関西事業支部に国際委員会が新設され、すでに中部、九州にはあり、関東を除く3支部は整っている。関東では交流委員会の中に国際委員会を置く案が提議され、早急に交流委員会内で検討し総会に提案する。又本部国際委員会との連動を検討する。

2. 総務組織委員会

プロジェクトメンバーバンクの再構築のアンケート調査をする。又新入会員全員の参加推進を検討。

JID-ACT kantoの再構築を検討し、正・賛助会員とも積極的にACTをサポート、ホームページにACTページ新設と正会員への予備軍とする制度の見直し。

3. 事業委員会

活性化支援地域(結城市支援P)、JIDブランド事業構想P、をメールにて公募。

結城市支援Pについて、結城市より100万円の予算が付き空き店舗をギャラリーにする企画を実施する。

JIDブランド事業として受託事業の検討で、地産地商のビジネス、コミュニティビジネス企画提案などの取り組みを検討。

4. 広報委員会

新設ホームページの検討と内部、外部とのコミュニケーションの確立。四方山話などのJIDデータの管理の受け皿となることを検討。

5. 交流委員会

四方山話などの収録データのリスト作成により個人管理の資産を本部管理に移行する。

◆中部事業支部(安藤清)

1. 4月11日 第17回インテリアデザイン連絡会実施。

2. 4月14日 4月度役員会、連絡会を実施。

3. 4月25日 第2回中部インテリアデザイン連絡会リレーセミナー実施。

4. 5月10日～11日 CCDO研修旅行。

5. 5月12日 5月度役員会・連絡会実施。

6. 5月17日 JID50th中部事業支部記念セミナー「子育て世代の家づくりについて」第1回(親と子のメンタルヘルス 子供の心を豊かに育てるために)を実施。

今後の予定

1. 6月13日 第18回インテリアデザイン連絡会予定。

2. 6月24日 JID50th中部事業支部記念セミナー(イタリアと日本の家庭のインテリア・こんな家で子育てしたい・家族の暮らしと家具)予定。

3. 6月9日 6月度役員会・連絡会。

4. 7月14日 7月度役員会・連絡会。

5. 8月2日 JID50th中部事業支部記念セミナー予定。

◆関西事業支部(安藤眞)

1. 総務委員会

4月18日(金) 平成20年度第1回運営委員会開催。

5月16日(金) 第1回総務・広報委員会開催(総会準備、e-ECHO編集案)。

2. 事業委員会

4月30日(水) 第1回事業委員会開催、アップルストアーとのコラボについて、隔月に借りてJIDを露出PRする計画。

3. 研究委員会

4月24日(木) 第1回研究委員会開催。

4. JID-ACT kansai

5月13日(火) 定例会開催(毎月第2火曜日)。

今後の予定

1. 総務・広報委員会

6月7日(土) 平成20年度支部総会開催(ヤマギワ大阪2Fセミナールーム)。

2. 事業委員会

アップルストア心斎橋とのコラボについて、セミナーペースで「JIDアワー(仮称)」を隔月で開催予定。

3. 国際委員会

6月中、第1回国際委員会開催予定「JIDアワー(仮称)」との連動。

4. 研究委員会

5月27日(火)「セカンドライフの住まい」研究会アンケート集計。

5. JID-ACT kansai 6月14日(土) 総会開催予定。

◆九州事業支部(川崎)

1. 円座について打合せ、(熊本伝統工芸館)展示、シンポジウム、円座等について。

2. 5月10日(木) 第5回役員会開催、平成20年度総会(予算、事業計画)打合せ。

3. 5月16日(金) 協賛関係打合せ。

今後の予定

1. 6月14日(土) 九州事業支部開催予定。

2. 11月 歴史に座る「ウインザーチェアの歴史」を九州産業大学美術館・国立九州歴史博物館・大宰府研修を含め50周年円座計画予定。

3. 21年1月 大川の賛助会員と学生・会員とのコラボレーションをファニチャーデザインコンテストと同時開催予定。

◆本部総務委員会(中田)

1. 委員会開催日:5月13日

会員拡大推進について

50周年記念事業を新入会員拡大のチャンスとし、入会キャンペーン企画検討。正会員、賛助会員入会メリットを明確にチラシ作成し記念事業イベント参加者、来場者等に配付。

新入会員サポートマニュアル作成検討。JID組織、4支部活動紹介等オリエンテーション開催実施に向け併せて検討する。又、4支部との連携もはかる。

2. ビジネスパートナーズについて

広報のルーティン化と新規賛助会員入会推進などシステムの充実、アンケート調査を実施検討。

3. 福利厚生ベネフィットワン新規入会募集の実施。

2008年第40回通常総会懇親会を5月30日、新宿パークタワー8階「クラブスクエア」にて実施予定。

4. JIDリーフレット改訂の検討

本年度改訂の時期を迎えるにあたり実施予算は35万~40万程度見込まれるため検討(現在のリーフレットは2004年12月制作)。

5. 改革検討委員会と情報を共有、6月中に合同会議を行う。

◆本部国際委員会(小野)

委員会開催 4月16日・5月10日・5月19日

1. APSDA関連

シンガポール サンテックシティホールにおいて、3月20日にAPSDA総会が、21日、22日に kongress が開催された。2008年テーマはRealizing Design. Bridging the Gapに国際委員会委員長小野由記子、次期委員長候補大森清次郎、大野美代子の3名が代表派遣として総会に参加した。

APSDAの固定事務局設置に関してJIDは事前にIFIシンガポール事務局にAPSDA事務局を併設する案をAPSDAメンバーにメール配信した。

総会においてオーストラリアから事務局を引き受けるプロポーズと予算が提示された。

JIDからは50周年記念事業の案内とJID賞ビエンナーレの紹介を行った、その他大野美代子氏が kongress において招待スピーチを行った。

2. 香港デザインセンターが主催する、アジアデザイン賞 DFAの紹介と参加依頼。

5月2日 担当者Mr. William To と面談し協力を承諾した。(酒井、小野、大森)

今後の予定

JIDのHP上でIFI・APSDAとのリンク設定。又、海外に向けてのJID英語インフォメーション(例えば50周年記念事業のアナウンス、JIDアワードや活動紹介)の作成を急ぐ。広報委員会との協力体制を希望。

◆本部広報委員会 インターネット

(安藤真、村口、安藤清、川崎)

1. 4月24日 50周年広報委員会の会議に出席。

2. webの更新なし。

今後の予定

1. 新年度は本部広報委員会として活動。

2. 事業内容の見直しと新規メンバーの選定。

3. ホームページのコンテンツ充実。

4. 支部ページとの連携、関東との調整。又各支部担当理事が広報兼任。

◆本部広報委員会 JID News(安藤真)

1. JID News 240号は6月末発行予定で進行中。

2. 今後の予定

JID News 241号、8月5日(火)編集企画会議予定、8月12日(火)原稿エントリー締切、8月29日(金)原稿締切一次、9月2日(火)原稿締切最終、9月16日(火)編集校正会議、9月末発行。

◆選考委員会(長岡)

1. JID賞ビエンナーレ受賞者フォーラムを実施

開催日時:平成20年6月13日(金)18:00~21:00

開催場所:リビングデザインセンター OZONE 8F

セミナールーム A

パネリスト:小笠原理恵(間工作舎)

米谷ひろし(TONERICO:INC)

司会：清水忠男(JID選考委員)

2. 2010年JID賞ビエンナーレ日程

(応募要項・ポスター検討)

募集企画決定2008年11月、印刷原稿完成2008年12月、応募要項配布2009年1月～、応募受付期間2009年5月～6月。

その他

1. 関係団体役員への就任状況

JID役員等の他団体役員への就任状況について事務局より説明。

2. JID財務その他の状況について(長岡)

過去数年間のデータ(事務局提供)を長岡理事がグラフ化し作成した表により、財務、会員異動状況等を説明、又本部、各事業支部の収支について詳細に説明、各役員に協会体質の推移と現状に対する理解を求めた。

3. 会員異動状況

事務局より5月末異動状況について説明。

4. JID創立50周年記念事業特別会計財務運営資金繰り

事務局が4月末現在の状況について説明。

5. 次回会議予定

平成20年度第2回理事会

平成20年7月22日(火) 16:30～18:30

6. 50周年エコ基金について

50周年関連のエコ基金に関しては、50周年実行委員会です討議したものを理事会に提案する。

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議題

◆第1号議案 平成20・21年度役員承認の件

任期満了に伴う役員改選について

(理事長) 酒井正人

(副理事長) 阪井良種、清家淳一

(理事) 安藤清、安藤眞吾、小野由記子、川崎泰秀、

佐藤健一、長岡貞夫、中田重克、村口峯子

(監事) 宇賀敏夫、川上信二

以上につき議長は承認を諮り、異議なく承認された。

その他議案ではないが議長が発言、前理事長川上玲子氏を理事長の顧問に委嘱したい旨提案があり、理事会はこれを了承した。

◆第2号議案 後援・協賛名義承認の件(5件)

●『eco japan cup 2008』 後援・新規

●『第40回インターナショナル・ギフト・ショー秋2008』

協賛・継続

●『TOKYO URBAN LIFE 2008』

協賛・継続

●『TOKYO URBAN LIFE 2008

東京未来創造人 100人の協力体制』 協賛・継続
以上4件について事務局より説明、議長は承認を諮り異議なく承認された。

◆第3号議案 会員入退会承認の件

●正会員 入会(4件)

青木慎次(関西) 推薦人:清家淳一、峰尾武

佐藤由紀子(関東) 推薦人:菅野民子、安竹麻智

山内恒男(関西) 推薦人:小宮容一、清家淳一

足永和子(関西) 推薦人:清家淳一、安藤眞吾

●賛助会員 入会(3件)

株式会社遠藤照明(関西) 推薦人:小宮容一

ドーマンズ株式会社(関東) 推薦人:本部事務局

株式会社大富(関西) 推薦人:清家淳一

●正会員 退会(5件)

1249 辻野由美(中部) 1172 広瀬育代(関東)

1142 竹内久美子(関東) 0897 鈴木滋伸(関東)

1192 小林弘明(関東)

●報告事項(訃報)(1件)

垂水健三(関東正会員)

平成20年4月18日逝去 享年74歳

以上13件について事務局より説明、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第4号議案 議事録署名人選任の件

議長は安藤清、安藤眞吾 両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

社団法人日本インテリデザイナー協会 平成20年度第1回理事会に関し、定款第26条に基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人が記名捺印する。

議長 酒井正人

議事録署名人 安藤清、安藤眞吾

第40回通常総会 議事録

日時：平成20年5月30日(金) 15:30～17:00

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

OZONEセミナールームA

議事

- 第1号議案 平成19年度事業報告(案)・
平成19年度収支決算報告(案)承認の件
- 第2号議案 任期満了に伴う役員改選の件
- 第3号議案 平成20年度事業計画(案)・
平成20年度収支予算(案)承認の件
- 第4号議案 JID創立50周年記念事業計画(案)承認の件
JID創立50周年記念事業特別会計収支予算
(案)承認の件
- 第5号議案 公益法人改革三法施行による公益社団法人
認定に対する申請承認の件
- 第6号議案 議事録署名人選任の件

議事経過

定刻15時30分、峰尾事務局長の開会の辞で開会した。
直ちに「本日の正会員数343名、本日の出席者数35名、
定款第25条による委任状提出者数179名、合計214名」
である。
定款第23条による定足数は171.5名よって本会は成立
した旨、成立宣言がなされた。
議事に先立ち、峰尾事務局長より定款第22条により、本
総会の議長は、理事長がこれにあたる旨説明した。
続いて川上玲子理事長が議長となり挨拶の後、議事に
入った。
直ちに書記に安竹麻智会員を指名。順序が異なるが、
第6号議案 議事録署名人選任の件を提案、総会の承
認を受けた、その内容については第6号議案に記載。

議事

◆第1号議案

平成19年度事業報告(案)・平成19年度収支決算報告
(案)承認の件
議長が総括説明に入り、平成19年度は主に創立50周
年記念事業の具体的な計画に力を注いだ、又対外活
動としてデザイン8団体との協力体制、IPEC、インテリア
産業協会、ファブリックス協会、国際家具産業振興会と
の共同によるインテリアネットワーク(仮称)事業計画案作
り参加等他団体との交流が促進された。その他50周年

イベントの発足、50周年エコ基金の設立で環境保護へ
の参加意識の表現、2008年JID賞ビエンナーレ入賞者
決定と賞の授与、IFI釜山への参加と海外諸国の来訪
等に対応した年度であったと報告。

次に各々の事業報告及び収支決算の内容について事
務局長より報告が行われた。引き続き監事を代表して
川上信二監事より去る4月25日東京において会計監査
を行った結果が報告された。

その後質疑に入ったが質問なく、議長は総会に承認を
諮り、賛成多数でこれを承認した。

ここで議長を酒井正人次期理事長予定者に移し議事
に入った。

◆第2号議案

任期満了に伴う役員改選の件

議長より、総会に先立ち行なわれた平成20年度第1回
理事会において承認された役員について議案書に基
づき説明を行った。

その後質疑に入り、若干の質疑応答の後、議長は総会
に承認を諮り、賛成多数でこれを承認した。

◆第3号議案

平成20年度事業計画(案)・平成20年度収支予算(案)
承認の件

議長が総括説明を行い、JID創立50周年を迎え、記念
事業を成功させることで、今後のJID活動の新たな展開
が開かれると考え、半世紀にわたる貴重なJID活動を活
かし「これからのJID」が更に発展するために、人材・組織・
財務等を見つめなおし、会員が活躍できる「新たな魅力
づくり」構築と日本を代表するインテリアデザイナー組織
として社会へ貢献し、世界へ発信する役割を充実させ
たいと提案。

次に各々の事業計画(案)及び収支予算(案)について
事務局長より説明が行われた。

その後質疑に入ったが質問なく、議長は総会に承認を
諮り、全員賛成でこれを承認した。

◆第4号議案

JID創立50周年記念事業計画(案)承認の件
JID創立50周年記念事業特別会計収支予算(案)承認
の件

川上玲子創立50周年記念事業実行委員長が説明に
立ち、実施予算及び計画実施案について決定事項を
報告。

その後質疑に入り、若干の質疑応答の後、議長は総会
に承認を諮り、賛成多数でこれを承認した。

◆第5号議案

公益法人改革三法施行による公益社団法人認定に対
する申請承認の件

議長が平成19年度第6回理事会において承認された、
本案について説明が行われた。

その後質疑に入り、若干の質疑応答の後、議長は総会に承認を諮り、賛成多数でこれを承認した。

◆第6号議案

議事録署名人選任の件

議長から腹案として、菅野民子、長堀映司両会員（いずれも関東事業支部所属）が提示された。

以上につき、議長は総会に承認を諮り、全員異議なくこれを承認した。

閉会

議長が挨拶に立ち、本日の議事案件に対するご協力に感謝する旨の謝辞が述べられ17時00分第40回通常総会は滞りなく終了した。

以上、社団法人日本インテリアデザイナー協会第40回通常総会の議事経過の要領及び結果を記録し、その相違ないことを証明する。

平成20年5月30日

社団法人日本インテリアデザイナー協会

議長 川上 玲子、酒井 正人

議事録署名人 菅野 民子、長堀 映司

— 新任のごあいさつ —

広報担当理事として

広報担当理事／関西担当理事 安藤 眞吾

このたび本部理事を拝命しました。併せて関西事業支部支部長も拝命し、関西会員のまとめ役と本部とのパイプの一人二役を担うことになりました。

また、従来の情報委員会はインターネット担当理事とJID News 担当理事とに別れておりましたが、新たに広報委員会としてインターネットとJID News の両方を担当することになりました。これも、電子情報と紙情報の連動により、スムーズな情報伝達を図ろうとする新理事長のお考えだと理解しております。

「情報」とは「情けに報いる」ことだと思います。公正かつ感情に訴えるよりよき広報をめざしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

理事拝命所感

九州担当理事 川崎 泰秀

昨今の国内の住宅着工件数の減少は、産業基盤の浅いインテリア業界全般に、少なからずネガティブな影響をあたえているようです。加えて、想像を絶する大幅な原油高などに起因する各種原材料費の値上がりも、各分野の川下製品に価格転嫁しなければ、再生産が困難な事態となり、住環境の質的向上を願う、多数の国民を困惑させる状況となっています。

インテリア産業界全体が置かれているこのような現状の中、JID創立50周年記念の大切な時期に、3期連続役員を務められた山永前理事の後任として、九州担当理事を拝命することになりました。半世紀にも及ぶJIDの歴史のなかで、会員歴も短く微力な小職にとりましては、分不相応の任務と固辞をしておりましたが、ご推挙をお断りできず、お引き受けすることとなりました。

本部先輩役員の皆様方との面識も十分にとれてはいませんが、できる限り積極的に交流し、JIDの活動に参加・協力し、九州事業支部でもより良い支部活動が少しでも生み出せるようにと、気持ちを新たにしております。また、円座等すでに遂行された事業もありますが、今年度は50周年記念事業が多岐にわたり各地域で開催されます。これらの事業を通じて、会員相互のさらなる結束とJIDの発展に向けて、新理事長・理事各位・九州のメンバーはじめ会員諸兄とともに努力していきたいと考えております。

今後のご指導・ご教示を宜しくお願いいたします。

理事を引き受けて思うこと

選考委員会／

改革検討委員会 担当理事 長岡 貞夫

■21世紀の「くらし文化のかたち」をデザインする

近年、日本のインテリアデザイン界の発展は目覚ましいものがあります。しかし、ライフスタイルの多様化、価値観の変化、社会システムや環境の変革、素材・工法の技術革新などから、「インテリアデザイン」の概念やあり方、社会的位置づけなどは大きく変わりつつあります。

また、消費者やユーザーの「インテリアデザイン」に対するイメージ、理解度、期待感などにも温度差が見られるのが現状です。

また、職能団体としての社団法人日本インテリアデザイナー協会(JID)の組織力、活動力、認知度は必ずしも満足いくものではないと推察されます。

創立 50 周年という組織にとっての大きな節目は、JID にとって、こうした現状を踏まえたうえで、その組織活動の活性化を通して日本のインテリアデザイン界の Re-Construction のリーダーシップを発揮する絶好のタイミングといえます。

■今、インテリアデザイン界に期待されるものは

「豊かで美しい生活環境の実現」

「美意識のある社会の醸成」

「望ましい環境形成」

「社会貢献と国際協力」などの理念でしょう。

また、内なる変革として、インテリアデザイン力向上の研鑽、関連デザイン界との差別化と連携、関連業界との緊密でインタラクティブな情報交換による新たな相互扶助の構築。インテリアデザイナー(個人・組織)の経済的、社会的基盤の強化などが望まれます。

■JID組織のイメージ革新の提案

専門領域が多岐にわたるJIDは、「生活文化のかたち」をデザインするという社会的役割を担うインテリアデザイナーの全国組織として、過去 50 年間にわたって日本の生活文化向上の一翼を担ってきました。しかし、その全体像が描きにくいこともあり、この際さらなる「インテリアデザイン」の認知度を高める必要があります。

そこで、JID 創立 50 周年を機に企業が CI(Corporate Identity)を重視するのと同様に、JID 組織のイメージ革新としての GI(Group Identity)導入を検討案件として提案いたします。

インテリアの定義はどういうこと?

インテリアデザインてなに?

インテリアデザインは暮らしとどんな関係があるの?

インテリアデザイナーは面白い仕事なの?

インテリアデザイナー協会って何をするとところなの?

などの原点をあらためて検証し、インテリアデザインの将来のための思い切った施策としてJIDのGI導入を推進することによって、JIDのブランドを社会にアピールすることが、JIDの「組織価値」を高めるところになります。このことが、在野のデザイナー(特に若手層)の組織加入を促進するでしょう。

これらのことが次なるJIDの未来を展望する上でも全国組織としての責務であると思われます。

——退任にあたって——

本部委員会『事業推進』 4年間の総括

前副理事長・担当理事 小宮 容一

私事ですが、理事3期6年を無事勤めさせていただき、ご支援にお礼申し上げます。

さて、『事業推進』には、平成16年度発足の企画から、携わりました。当時、バブル崩壊後のJIDの一連の改革(事務局改革・財務改革・組織改革)を終え、次の段階に事業改革が必要でした。当初『事業推進担当』の名称で、私と、丸谷芳正氏、安藤清氏の3人体制で発足しました。2期目(平成18・19年度)は、2年の実績を基に、私と岩倉榮利氏、山本棟子氏、吉良ヒロノブ氏の4人体制で、名称『事業推進』としました。発足当初の基本的な方針として、①本部・支部事業の役割分化と全国展開。②事業の拡大・効率化。③社会的貢献。④PR・プロモーション。⑤会員のスキルアップ。⑥国際関係の維持・発展。に加え、丸谷氏から、⑦PPS(project promotion system)事業推進システムの提案がありました。

以下4項目が4年間の主な成果です。

1.ID賞の全国巡回展です。

過去には、東京で贈賞式と展覧会をするに留まっていたものを、2年毎ではありますが、関東展だけでなく、中部、関西、九州の各事業支部を巡回する構造を作りました。地域への刺激とPRになっています。

2.この逆方向が支部事業の全国展開です。

中部事業支部発の「センス[扇子]」のあるインテリア展」では全国会員に作品募集しました。また、2006年の関東事業支部発の「Table Design」展内「テーブル素材学」も全会員に作品募集しました。

3.国際会議への積極的出席を進めました。

2007年の釜山でのIFI会議には、関西事業支部から支部から初めて、代表を1名出すことができました。

4.「年間事業計画一覧(PPSスケジュール)」のシステムを構築しました。

これは、本部と4事業支部の年間の事業スケジュールを一覧できる表です。支部事業立案に寄与しています。

私見ですが「事業推進」は、それなりに役目を果たしたと思います。平成20・21年度は、新役員、新理事会となり、組織も再編成となりました。事業推進の総括的判断は新委員会「改革検討委員会」で行うことになるかと思っています。次期の理事会に期待します。

「改革検討委員会 事業計画」について

改革検討委員会 委員長 清家 淳一

第1回会合は酒井正人理事長の事務所をお借りして4月12日(土曜日)10時から酒井正人理事長・阪井良種副理事長・長岡貞夫理事と私の4名で開催。

始めに委員会名称に対し目的と業務を明確に理解できる名称が良いとの意見で『改革検討委員会』に決定、引き続き「財務の検証、健全化」について長岡貞夫理事から前回の理事会での財務資料(事務局報告)を分析し非常にわかりやすいグラフ化した資料で過去からの推移や現状財務の確認を行なった。

このままで推移するならJIDは維持できないことが明確になった、いち早く改革し、新しく生まれ変わることが急務である。

事業計画案(第40回通常総会資料に項目掲載)

1:財務の検証、健全化。

- 現状分析し対策の検討。
- 再度、不払い会員に対し推薦者・理事長・支部長連名で現状を理解していただく封書を送ることで回収をする。

2:会費低減についての検討

- 50周年記念事業年度として入会金半額とする。
- 新規会員の増強を各会員が新会員1名を推薦(現会員343名×2=686名で約1,500万円増)これによって会費削減の可能性が考えられる。
- 各委員会事業を活発化し、運営経費を明確に算出し本部・支部事務経費へ補填する。

3:創立50周年記念事業のサポート及び進行管理。

- 収入支出のバランスチェックと責任範囲を明確にする。

4:CPD制度(専門家の専門知識維持・向上。社会に対し、より専門性を提示するプログラム)の構築。

- CPD制度を取り入れ、会員の実績や社会貢献を評価することで、世の中のJID会員認知度と評価を高める。

5:対外広報活動の充実とWebの活用。

- JIDNewsとWebの一元化により、JID活動と会員活動を効果的に伝え、広く理解いただくことで優秀な人材を集め又認知度を高める。

6:本部・支部間の、より効率的な事業活動を計る。

- 各委員会の全ての目標は、全国規模から発想し分科会として事業支部に落とし込むことを前提とする。

7:選挙制度の見直し。

- 広く若い人材活用と活動の場が出来る選挙制度の確立。
- 推薦には本人確認制度の規約変更など検討にする。

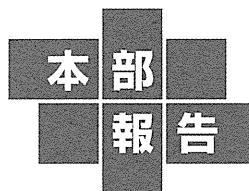
8:事務局体制の将来計画。

- 中部・関西・九州各支部の委託事務費は年間約160万円となり、この業務を本部に一元化することで支部委託事務費削減の可能性が考えられる、多少無謀な案であるがこれを機会に事務局の見直しも必要と考える。

事業計画(案)の1~8の項目に対し、会員・新理事から改革アイデアをご提案いただき実行することが重要と考えます。改革には多少の痛みを伴うことも今後発生するかと考えられますが、次世代への社団法人日本インテリアデザイナー協会存続にご協力よろしくお願いします。

※追加検討項目—————9:エコ基金の(会員会費1%)寄付内容と寄付対象及び継続検討 10:JID表彰制度規約整備

※会議報告—————H20年6月11日(水)事務局会議室にて共通課題を総務委員会と合同会議開催
7月22(火)理事会開催日に共通課題の広報委員会と総務委員会3委員会会議開催予定。



総務委員会

担当理事:中田 重克
委員長:井出 昭子

第40回通常総会・懇親会の報告

総務委員 安竹 麻智

平成20年5月30日(金)第40回通常総会・第15回関東事業支部総会終了後の午後6時30分より、新宿パークタワー「クラブスクエア」において懇親会が開催されました。

開催に先立ち酒井正人新理事長より総会がつつがなく終了したとの報告の後、新理事長着任挨拶とともに、半世紀にわたり築いてきたJID活動を次世代につなぎ発展させるためにも、人材・組織・財務など組織の基本を見つめなおし、「新たな魅力作りに着手し日本を代表するインテリアデザイナー集団として社会・世界に向けて発信していきたい」との挨拶を行いました。

続いてJID創立50周年記念事業 川上玲子実行委員長よりこれまでの具体的な活動経緯の報告、協力企業に対しての御礼、「エコ募金」の設立(会費の1%をあてる)デザイナーとして環境保護参加意義を訴求する。などの挨拶を行いました。

その後、来賓を代表として、経済産業省製造産業局 デザイン・人間システム政策室室長 荒木潤一郎様より

総会・懇親会

インテリアデザイナー協会



JID創立50周年への祝辞を賜り、そして、有限責任中間法人日本インテリアプランナー協会会長 中川聖一様の発声によって和かな懇親会がスタート致しました。途中、日頃JIDの運営にパートナーとしてご協力頂いています賛助会員の紹介、会員相互の近況報告等を交えて懇親を深め、最後に坂井良種副理事長の閉会挨拶を以って幕を閉じました。なお今回の懇親会には来賓を含め、71名のご参加を頂きました。誠に有り難うございました。御礼申し上げます。

JIDビジネスパートナーズ通信

総務委員 伊藤 公一

平成20年度の活動について

早いもので、JIDビジネスパートナーズが立ち上がり3年目になりました。本部総務委員会では、より一層使いやすいシステムにするため、昨年より賛助会員企業15社の皆様と運営協議会を立ち上げ協議を続けています。皆様からもご意見、改善点などありましたらお気軽にお知らせください。

平成20年度につきましては、JIDホームページのビジネスパートナーズ専用ページでは、広報活動を一層強化するとともに、参加企業のホットニュースをいち早く会員の皆様にお届けできるよう情報提供のシステム化にも取り組んでいきます。すでに開設していますので是非一度ご覧ください。現在、建材、設備、照明関係の賛助会員企業の方にもより広く参加を求め引き続き活動しています。楽しみにお待ちくださいね。

出版委員会

委員長 安藤 清

記念出版—悪戦苦闘!

40th『日本の生活デザイン』の建築資料研究社と「北欧スタイル」などでおなじみの「エイ出版社」との記念出版・発注出版社比較選択肢の中、4月末「エイ出版社」に決まりこれからが本番、編集調整のスタートラインにこぎつけました。

出版顧問の泉修二氏の40th出版時のご縁で建築資料研究者社の多大なるご協力の中、やはりリスクが少なく一般の方々への魅力本として実績あるエイ出版社と展覧会委員会との連携会務を重ね、編集業務に邁進いたします。

東京での中心業務のため石川尚副委員長のもと泉修二氏、清水忠男氏の協力をいただき、また川上・岩倉正副実行委員長、他50th実行役員の助言のもと会務を重ねます。

とはいえ、記念出版実現は協賛社次第、たとえ1社でも会員一丸の意気でご尽力ご協力をお願いします。

展覧会委員会

委員長 阪井 良種

JID 50th 展覧委員会では記念式典日(10月24日)の前日から1週間の予定で、本部事務局のあるOZONEにて展覧会を企画しております、皆様には今後多々ご協力をよろしくお願いいたします。

●展覧会タイトル

発想の「原点」ここを探る ハンド・ドローイング展

●趣旨

日本におけるインテリアデザイン黎明の時代、日本のインテリアデザイン界をリードしてきた先人たちの時代へのメッセージをデザイナー自身直接描いた様々なドローイング(スケッチ・パース・エスキース図面・原寸図…)から、時代を背景に未来に対し夢を描いた強い思い“こころ”を感じ、読み解く展示会(完成した物・家具・空間を同時展示)。デジタル化された情報化時代の今日、アナログ情報の

原点

こころのデザイン



JID創立50周年記念事業

各委員会からのご報告

持つ「強く」「深く」「豊かな」メッセージ性は新鮮でダイナミックなパワーとなって見る人に感じられ、近い将来散逸を免れない様々なアナログなドローイング(スケッチ・パース・エスキース図面・原寸図…)を収集し、展示することはインテリアデザイン文化の継承としても貴重な展示会となり(記念出版とも連動)、JID以外にはこのような企画展の実行は困難と考え企画いたしました。

●展示デザイナー(予定)

剣持勇／佐々木達三／長大作／豊口克平／長原浄
新居猛／松村勝男／水之江忠臣／山口道夫／渡辺力の10名を予定。

●展示イメージ

個々のデザイナーのドローイングと実物作品が、時代背景の映像・音とともに照度を落とした会場に明るく浮かび上がり、ビジュアル化された日本のインテリアデザインの年表がデザインの流れを解りやすく伝える。

●来場者対象

プロのデザイナーには：

輝かしい実績のあるデザイナーが描いたドローイングの中に、デザイナーの“こころ”を探る。

これからデザイナーを目指す学生等には：

デジタルなハンド・ドローイング表現の魅力と、デザイナーの“一かたち”に対する思いを感じとる。

インテリアに興味を持つ一般生活者には：

デザイナーの“こころ”を描いた絵画として鑑賞。

●開催場所・期間

OZONE 3F OZONE プラザ (3F 吹き抜け)

2008年10月23日(木)～28日(火)

現在東京以外での巡回展については予算も関係し、計画しておりませんが、開催要望がありましたら予算計画も考慮した企画を提案していただければ実行委員会にて実現する方向で検討させていただきます。

以上、詳細な内容がお知りになりたい方は展覧会委員会までお問い合わせください。

式典・シンポジウム委員会

委員長 村口 峯子

心をこめた式典とシンポジウムの成功を皆様と!

総会も終わり、いよいよ50周年記念事業の年度となりました。式典・シンポジウムは平成20年10月24日の予定です。大きな方向性はまとまり、今後は内容を検討しながら詰めていきます。

今期の理事会は理事長をはじめ大変新鮮なものです。また50周年のテーマは「原点」です。式典・シンポジウムの内容も原点に立った、新しい新鮮な気持ちでのスタートと捉えます。正会員、賛助会員、日頃応援してくださるクライアント、企業、団体、官庁などの多くの方々の心に残る記念の日とたく、会員の皆様のお知恵とお力をいただきたく思います。

皆様と共に盛り上げていきましょう。これからいろいろな楽しいアイデアが望まれます。是非とも委員会へのご参加をお待ちしています。

室内デザイン学校委員会

委員長 山本 棟子

JID 創立 50 周年記念事業 第1弾!

デザイナーズトークツアー“^{くるまど}円座 in 四国”

創立50周年記念事業の最初の事業となった室内デザイン学校委員会企画のデザイナーズトークツアー“円座 in 四国”は、4月4～5日、31名の参加を得て好評裡に終わりました。



ツアー中、訪問の先々で取材を受け、瀬戸内海放送



からTV放映、地元誌等にも記事が掲載されたことは、JID活動の宣伝になったのではないかと思います。この円座は、11月福岡、来春のJID 50thラストイベントとして東京大集合!を予定しています。各地域の会員の方々のお力を大いに期待しながら、JIDの輪を広げられたらと、委員会一団となって頑張っています。—いつでも、どこでも、教え教わるみんなのインテリアデザイン—、地域の文化や味の楽しめる「大人の学校」へ、多くの方々のご参加をお待ちしています。

当委員会のもう一つの企画である「子どもインテリアデザイン学校」は、小学校を対象に“自分たちでつくろうランチルーム!”と“体験!インテリアデザイナー”を予定しています。協力していただける会員を、今後募りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以下は、「円座in四国」の詳しいご報告です。

JID 創立 50 周年記念事業 第 1 弾 デザイナーズトークツアー“円座 in 四国” 関西事業支部 大野 晃貴彦

4月4日(金)、5日(土)の2日間に亘り四国は香川県で実施されました。参加者は、関東、関西、九州等から30名以上が訪れ、初めてや久しぶりとあって異国の地のようになかったかと思えます。

瀬戸内海に浮かぶ島“直島”や“イサム・ノグチ庭園美術館”が主な目的だったのではないのでしょうか?

私は、今回の企画で、JIDの皆さんを迎えるにあたり改めて四国のデザイン文化・芸術、風土、歴史等について考える良い機会をいただきました。

自身の生まれ育った心象風景、生活空間、自然環境等を歴史的背景を含めて立体的に考え学ぶことが出来ました。

さてこの2日間で、参加者に四国をどのような構成で観たり感じたり触れたりコミュニケーションを企画すれば良いのか、又何を求めて来られるのだろうか?

しかし感性は人それぞれで、四国の空気をいっぱい感じていただけるよう努めようとの思いでした。

今回の目玉はやはり直島だと思います。

今、アート島として世界中からデザイナーや学生が訪れます。この島にはなぜか人を魅了する何かが有ります、今から850年前の平安時代“保元の乱”で敗れた崇徳(ストウ)天皇は、四国へ流刑となります。途中直島に立寄り、島人に大変な歓迎とてなしを受け、いたく感激した崇徳天皇は、素直の直をとって“直島”と名付けました。

直島の人々は、昔から何事も受け入れる度量の広さを持ち合わせていたのでしょうか。

皆さんは、どのように感じたのでしょうか?

もう1つの楽しみは、世界的彫刻家イサム・ノグチの世界ではないのでしょうか?

ノグチは、半世紀近く前、石を求めて旅して、四国の石の産地で、今、庭園美術館となる香川県牟礼に辿り着きます。そしてアトリエを構えるのです。

そこには石の職人や技術を、そしてノグチを引きつけるエネルギー受け入れる風土があったのではないのでしょうか?

生前の制作途中の作品のノミの跡には、ノグチの魂の残像を感じずにはいられません。

静寂な作品群の中で何かを感じ取っていただいた気が致します。

ここ四国には、石の他に木工、漆、織染、和紙等の伝統工芸品があります。

今回は漆家具と木工の制作工場を見学致しましたが、生活に深く関わる身近な品物を造る、素材、人、技術が風土の中に生きづいています。十分な時間がなく、その一端を垣間見るに過ぎなかったと思いますが、いかがだったのでしょうか?

夜の“円座”では地元のデザイナー、家具作家が参加して交流を深めました。

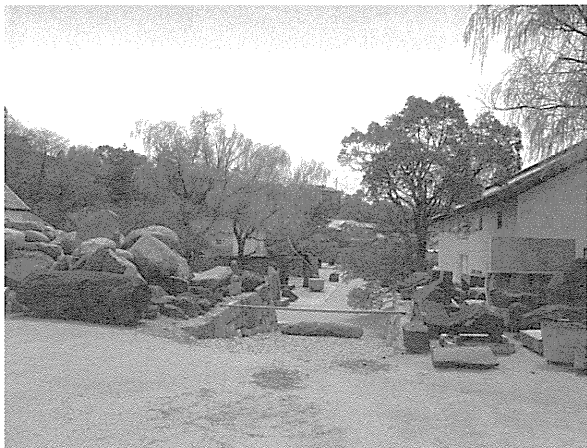
個性的参加者が多くほとんどの時間を自己紹介で終わってしまったことが残念でした。しかしこのような企画がデザイナーの仕事のヒントや刺激となり活躍の場が広がれば嬉しいことです。私も大変な励みとなり、これからこの仕事に生かしたいとの思いでいっぱいです。



イサム・ノグチ庭園美術館入口にて



地中美術館カフェからの瀬戸内海



イサム・ノグチ庭園美術館



夜の円座(ときわ茶寮)

※直島：香川県香川郡直島町、高松港からフェリーで北西60分
(岡山県宇野市に近く、フェリーで20分)

デザイナーズトークツアー“円座 in 四国”に参加して 賛助会員 株式会社サカイ 浜本 康一

私は高松の瀬戸内海対岸の町、岡山県宇野で育ちました。今回の直島・高松のツアーは里帰りのような思いで参加させていただきました。2つの印象の異なる美術館を訪問し、あらためてインテリア、建物、ランドスケープなどを再考する機会を得ました。

1日目の直島地中美術館は施設の大部分が地中にあり、内部は全体的に薄暗く出入り口やスリットから漏れ入る光のみが日中か夜間かを伝える密閉された施設です。瀬戸内海に臨んでいながら、展示を見終えた先にあるカフェの大窓からしか瀬戸内海の景色を見ることができません。事前にスタッフの方から建築物自体・空間自体が展示＝美術との説明がありましたが、私たちは建物のスケール(奥行や高さ)を外観から感じないまま入館し、純粹にインテリア(内部空間)を感じ取る仕掛けにはまったような気がします。コンクリートの無機質・無彩色が空間のヴォリュームだけを提供し、そこにアーティストのアートを棲まわせるといった印象でした。

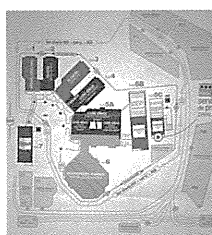
翌日のイサムノグチ庭園美術館は対照的に、屋外に彫刻作品を展示している美術館です。観賞者は昼夜、天候、季節を自然のまま感じとりながら、その雰囲気さらされている彫刻を観賞します。施設と隣家の境界もあいまいで、建物を表す「館」というよりはエリアを表す「園」がピッタリの施設です。丘上のイサムノグチの作品は前方の屋島を借景として眺めることができ、全体のランドスケープ自体がアートと表現できると感じました。

夜の円座では多くの会員の方々とお話をいただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ただ残念なことは、地元以外の賛助会員の参加が少なかったことです。私たち賛助会員も正会員との交流に積極的に参加する姿勢が望まれます。協会全体では地域を越えた交流、世代を越えた交流、あるいは学生さんとの交流などが一層活発になり、芸術的に見られがちなインテリアデザインという分野が社会必然の分野になることを日頃から希望しています。

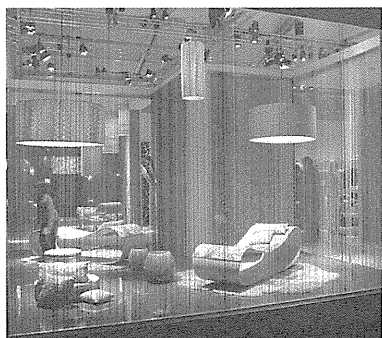
パリで年に2回開催される、ヨーロッパ最大規模級のインテリア・生活雑貨・ライフスタイル全般の見本市「メゾン・エ・オブジェ」。

幾筋もの飛行機雲の走る青空の下、心躍らせながら「メゾン・エ・オブジェ」の会場へ。

9つの大ホール



- Hall 1 世界からあつめた
デコレーション
- Hall 2 テキスタイル
- Hall 3 テーブルウェア
- Hall 4 アートクラフト
- Hall 5A~5C インテリア
- Hall 6 ギフト、キッズ、アロマ、
ホームアクセサリ
- Hall 7 Now! design a vivre



ミッソーニ・ブース



MOCHA・ブース

世界中から集まったバイヤー達との熱い商談があちらこちらでなされていました!

バイヤー目線できちんと交渉しながら見ていくには、数日はかけないとすべては見きれない程のボリュームなので、相当なパワーが必要です。

バイヤーではない私。今回のテーマは『①いいものを見てセンスを磨く』『②「Maison et Objet」を楽しみつくす』。終始ワクワクと共に会場を巡りました。

素晴らしいブースデザイン、あふれる素敵なデザイン素材の数々。ホール7では、カルテル社のフィリップスタルクのチェア「マドモワゼル」のファブリックをゴルティエ、ラクロワなど著名なファッションデザイナー達が、個性的にアレンジした企画や、若手デザイナーの作品が多彩なブースに並び…目から右脳と心に栄養がグングン入ってくる様でした。商品の見せ方の上手さは「魅せ方」と、表現していいようなほどでした。

大好きなデザイナーズギルドのブース。色とデザインのバランス、センスが光っていました。

ピンクを引き締めるモスグリーン、甘いだけでない洗練された組み合わせはさすがでした。

今年のメゾン・エ・オブジェのテーマカラー“アクアブルー”に込められたメッセージは『進化するエコ』。

看板やポスター、パンフレット、スタッフのユニフォームにも海を意識したモチーフやカラーが使われていました。

贅沢品とも言えるインテリアアクセサリ。

それをデザインする側、製作する側が環境を考え、エコを意識して取り組むことはとても大切な事。

『進化するエコ』と言うテーマ、洗練されたデザイン、高い技術でつくられたクオリティーの高いものに触れ、使い捨てではなく、きちんと良いモノを選び、そして愛着をもって大事につかうことは、日常の中でエコの姿勢へと繋がると感じました。

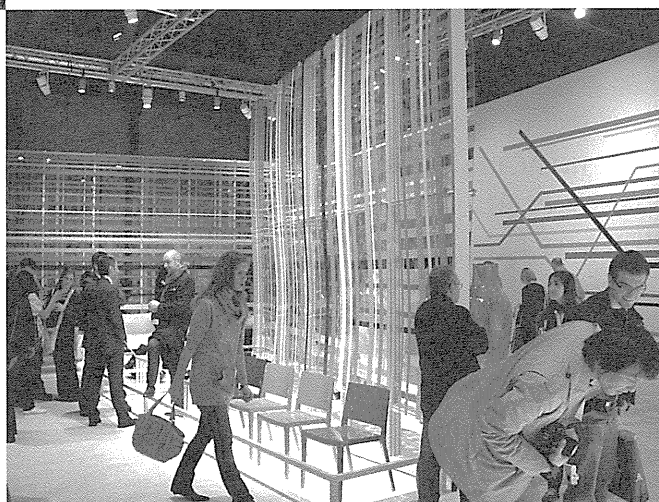
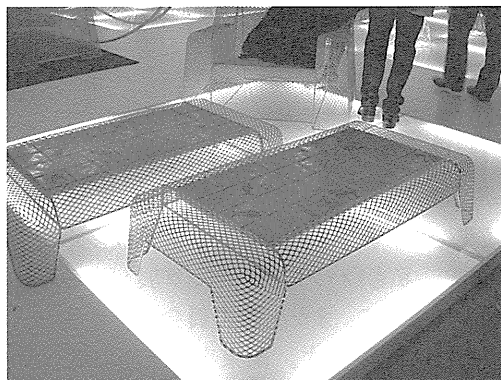
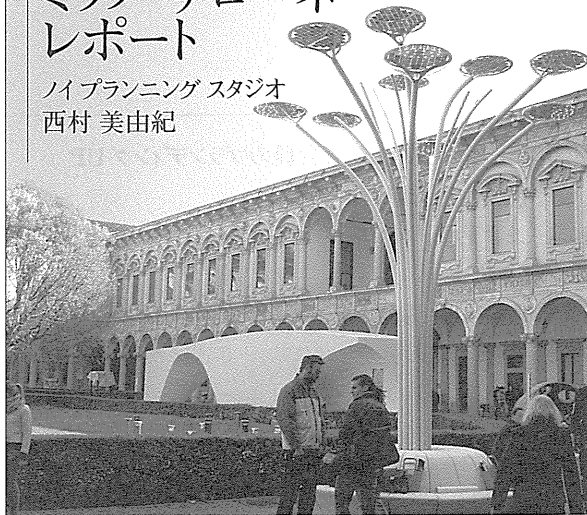
日本の一般家庭でも、心を豊かにするデザインで生活を楽しみ、環境も考えながら、上質なものを長く使う、美しいライフスタイルになっていくよう、今後、上質な提案をしていきたいと、感じました。

予想以上に活気があり、そして楽しく、多くの学びがありました。また来たい!また来よう!と強く心におもいつつ会場を後にした、初「メゾン・エ・オブジェ」でした。

Milano, Italy 2008

ミラノ・サローネ レポート

ノイプランニング スタジオ
西村 美由紀



春のミラノの観光の目玉となったサローネだが、今年のミラノはサローネどころではないと言わんばかりに街中が工事中。ミラノの都市開発がいよいよ大きく前進し始めたようであるが、だからといってサローネが不振だったのではない。

お天気が悪く寒かったせいか、盛り上がりには欠けたフォリ・サローネとは対照的に、見本市会場は盛況で入場者は34万8千人。大成功といわれた昨年より30%増である。

お祭りは終わって、真剣に商売をする人が増えたということだろうか。

そんな今年の傾向は何といってもエコロジー、自然との調和だ。

まず目立ったのは苔や笹を使った演出。初めてサローネを視察した1996年から毎年言われるフレーズのひとつに「今年は和風が流行らしい」というのがあるが、今年はいたるところに日本庭園風の演出が見られた。玉砂利はもちろん、石組みをしたものまである。

「陰影礼賛」を引用するメーカーもあり、日本にはどこか省エネルギーを感じさせる文化があるらしい。

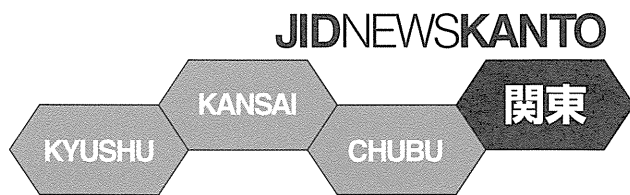
屋外用家具の新製品も自然を意識してか多い。

カラーはグリーン。インテリア誌の「インテルニ」は15世紀の建物(旧総合病院で現在はミラノ大学となっている)の中庭で「グリーン・エネルギー・デザイン」という作品展を開催。フォリ・サローネを示すインテルニの旗も若草色であった。

しかし、全ての現象がひとつに方向に向いているのではなく、正反対のものも混在しているのが今年の傾向。例えば、日本から発信している流行の一つにアニメやコミックもあるが、それらに使われる人工的なビビッドなカラーもインテリア分野に使われ始めた。

そのほか自然の一部、生物の代表として動物や、人間の身体の一部や骨などのパーツをモチーフにしたデザイン、演出も多い。

毎年、新しいものは少ないねえなどと悪口を言いつつも、モダンな高層建築が建ち始めたミラノで、来年はどのようなサローネに変貌していくのか、やっぱり楽しみである。



支部長就任のごあいさつ

関東事業支部 支部長／総務・組織委員長 日方 一城

今年度よりJID・関東事業支部長及び関東事業支部総務・組織委員長に就任いたしました。不慣れな点多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年はJID 創立 50 周年をむかえ、記念事業が数多く企画されております。私も「ハンドドローイング展」展覧会委員会の副委員長として、また出版委員会のサポート委員もさせていただいております。関東事業支部の活動もJID50 周年記念事業を成功させるための年と考え、各委員会協力のもと活動していきたいと思っております。総務・組織委員会の各委員もJID 創立 50 周年記念事業の兼務の中、前年度より引き継ぐパートナーズプロジェクト、JID-ACT kanto プロジェクト、プロジェクト・メンバーバンクなどに対して新たな展開を検討していきたいと思っております。

これからの2年間、会員の皆様方のご指導・ご協力をお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。

関東広報ホームページのご報告と 新年度活動方針について

関東事業支部 広報委員会 委員長 石川 尚

関東広報委員会は昨年度から『広報』委員会と改名し、「JID 関東支部会員(正・賛助)全員のブランディングUP!」を目標に広報活動を行なってきました。

旧年度当初に掲げた関東事業支部ホームページにおける個人ミニホームページ(各会員個人を紹介するページ)は、さる5月25日付け無事オープンする運びとなりました。無料全員表記スタイル(作品掲載はオプション費が必要)は、当初からのお約束でしたが、オープンできたことはひとえに会員皆様のご協力の賜物だと関東広報委員一同感謝しています。

今後は新規オープンの個人ページ定期更新、ならびに賛助会員ページ、各委員会紹介をしてまいりますので、追加表記ならびに刷新要望ございましたら、

【関東広報お問合せ先】jidkthk@gmail.com まで
随時ご連絡ください。

さて、年度始めに掲げた広報活動方針は次の通りです。

■活動方針

目標『支部ならびに支部会員のブランディングUP
(ブランドを高める)』その2

1: KANTO ホームページの充実…JID 創立50周年記念の碑

- ・支部各委員会活動の紹介(プロフィール&ワーク)
- ・支部賛助会員の紹介(プロフィール&ワーク)
- ・支部個人ページの定期更新(年3~4回予定)

2: 取材・広報活動の充実

- ・各委員会活動の広報→ホームページ表記の定期化
- ・支部会員・賛助会員 広報便

3: ライブラリー JID KANTO

- ・過去の四方山話ダイジェスト版制作／ホームページ掲載&リリースワークの準備
 - ・国際・交流委員会と連動して新規四方山話企画取材
- 4: プレスリリース
- ・プレスリリースの発信／ビジュアルフォーマットの準備

※上記すべて、JID50 周年記念事業との連動活動となります。

今年はJID50 周年記念事業もスタートし、今後益々広報の重要性が高まります。中でもJID 関東ホームページ…ホームページの内容を充実することにより、さらなるJID 関東のブランド、会員&賛助会員全員のブランドを高めなければなりません。

ブランドを高めるということは、すべて協会・会員&賛助会員に様々な形で還ってくることであります。割高な会員費もJID 関東ホームページによるブランディングの確立で相殺され、新たなネットワーク・ビジネスチャンスの構築ができると言っても過言ではありません。

当委員会ではまだまだ委員不足のため思うように活動できない状態です。随時、新規広報委員の募集をいたしておりますので、何卒ご協力ください。

【関東広報委員会メンバー募集お問合せ先】

jidkthk@gmail.com

広報委員会では、委員会活動へのご意見ご要望もお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

●広報委員会メンバー

石川尚／早乙女明子／中嶋泉／菅野民子
安田恵／櫻井良樹／小林雄二

H20年度 関東事業支部の事業計画と 会員の参加への期待

関東事業支部 事業委員会 委員長 萩原 多恵子

2008年度の事業計画は継続事業として、市町村支援プロジェクトがあります。

3年半にわたり結城市と折衝を続け、昨年末にはJID50周年記念イベントとして結城の里にて結城織物、染め教室などを体験、その後、市民の有志、団体の方々と円座(くるまご)懇談会等のバスツアーを実施。小さな努力を積重ねた結果、今回、空き店舗、蔵の有効活用の提案要請を受け、実施に向けて動き出しました。この小さなうねりを大きなうねりに変えるべく新たな展開が期待できると考えております。また新規事業計画として「町並み研究会」「JID 関東事業支部事業委員会の新規事業の研究」を掲げ関東事業支部事業委員会として、JIDの知名度の向上、資産活用を図っていききたいと思っております。

現在この会の運営は6人の会員で行っており、今後の発展を考えると更なる会員の能力の結集を図らなくてはならない状況です。今までは地味な仕事でしたが、今後は充実感のある委員会となることを期待しております。これからの日本を視野に是非とも興味のある方々の積極的な参加を現委員そろってお待ちいたしておりますので、ご連絡くださるようよろしくお願いいたします。

— 退任にあたって —

関東事業支部 支部長3期6年雑感

前 関東事業支部 支部長 佐藤健一

早いもので関東事業支部 支部長としての3期6年が過ぎました。

振り返ってみますと、感慨深い気持ちが湧いてきます。当初、支部会員は一体何を求めているのだろうとアンケートを実施したところ40数名の支部会員から、ご返事をいただき本当に感激いたしました。

第1位は「事業の獲得」でした。そして当時の関心事と思われる「ユニバーサルデザイン研究」そして「賛助会員との交流」と続きました。このようなアンケート結果と

私自身が思うエンドユーザーに対する広報や社会的アピールを踏まえ、色々と構想を巡らし思いを馳せました。当時、入会してまだ5年目と経験が浅く、右も左も分からない状況を田辺麗子さん、長岡貞夫さんと泉修二さんのお三方に関東事業支部の顧問を引き受けていただき多くのご意見とご尽力によって、様々な事業を推進することが出来ました。

JID パートナース関東は多くの支部会員の努力が実り、実現することが出来ました。

賛助会員のショールームを提供していただき、年数回の各種セミナーを開催し、照明のシェードや壁紙、風呂敷の歴史、カーテンや家具のミラノサローネ報告など有意義に勉強させていただいたと感じています。もっともっと活発化するよう次期支部長に期待するところです。

「事業の獲得」は会員誰もが望むことと思いますが、誰にも効果的で公平な方法はホームページと考え、関東のHPを立ち上げ、現在3回目の更新に着手中です。今回の目玉は支部会員のミニホームページを設定したことにあります。関東事業支部会員全員の作品が掲載できたら、きっとすばらしいものではないでしょうか。今後は益々HPがエンドユーザーとの接点として事業の獲得にもつながり、社会的にアピールする大事な協会の顔と成っていくことと思います。

事業委員会では、志半ばで亡くなられた下島資子委員長がエンドユーザー対象を念頭に、新宿オゾンとタイアップし、住まいに関するセミナーを年6回実施して好評を博し、翌年も萩原多恵子委員長が下島資子さんの遺志を継ぎ、実現することが出来ました。

事業の獲得といえば、市町村支援事業の立ち上げもそれらを踏まえ、青木会員や小野上会員がリーダーを歴任して地道に取り組んでいます。

現在は紬で有名な結城市にアプローチし、昨年11月には「結城見学バスツアー」を企画実施、参加した会員の興味を引くことが出来ました。

結城のTMOの事務局長、NPOの会長、造り酒屋のご主人、そば屋の女将達との意見交換も実現して、その成果は徐々にではありますが浸透してきています。支部会員には、今後もこの活動に是非ともご参加願いたいと思っています。

貴重な体験といえば、予算ゼロでスタートした会員ワーク集でした。なんとか黒字に持ち込み、オールカラー化で発行することができましたが中味については賛否両論で専門書としてのあり方が難しいところと感じました。作品集とホームページとの関係性も今後は詰めていかなければならないでしょう。



会員ワーク集2004
「インテリアデザイナーの仕事」

上記の他にも長岡会員が研究委員会を立ち上げて「テーブル展」という大規模な展示会を実現したり、総務委員会では福田会員が様々な諸規定をまとめていただきました。まだまだインテリアデザイナーの存在を知らない多くのエンドユーザーに、HP やセミナーを通じてアピールできればと考えています。

アクト関東やプロジェクトメンバーバンクなど、考えていたレベルにまで達することが出来なかった部分もありますが、支部長を離れても協会の未来を視野に発言、行動して行きたいと思っています。
今後ともよろしくお願いいたします。

第2回 中部インテリアデザイン連絡会 リレーセミナー

2008年4月25日 東邦ガス 栄ガスビルホール
安藤 清 (中部インテリアデザイン連絡会世話役)



インテリア関連各団体の各活動の他、共有できるものは合同でと始めたインテリア5団体の連絡会、去年は池下のナゴヤセントラルガーデンのデザインコンセプトと設計手法のお話につづき、今回は住まいに焦点をあわせ住宅において革新的な作風でご存知の建築家齋藤裕氏にお話を頂きました。

昨年東京大学の建築科の学生さんの自主企画、齋藤裕連続講義“建築ってなんだろう”巨匠のディテールー建築を成立させるもの5つの領域から一を、齋藤氏から連絡を受け東京で拝聴しました。その中の第4回「日本の伝統建築一数寄の源流ー」のなんと美しい画像で講演され、近年の和流インテリアに大いに参考と思い、名古屋でも是非とお願いしたところ今回は『金色の塵 日本建築の美』と題を改め講演いただきました。

194名の多くの方々が延長時間にもかかわらず退席わすれ好評でした。齋藤裕氏は独学で建築を学ばれ日本建築家協会新人賞に始まり、吉田五十八賞、日本建築学会賞、他多く受賞され現在も活動の他に、近年では巨匠といわれる建築作品に足しげく通われ、TOTO出版での執筆活動はご周知ですが、平行して日本人の感性『数寄の源流』探しも永年続けられその伝統の現代への解釈も、3月の『アアルトの住宅』の出版につづき計画がおりとか楽しみです。

齋藤先生ありがとうございました。

中部事業支部 平成20年度通常総会
 2008年5月17日
 名古屋大名古屋ビルディング12階 会議室
 中部事業支部 竹川 好郎

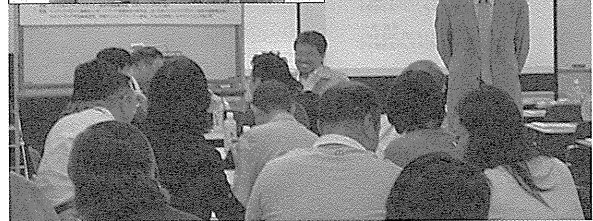


中部事業支部平成20年度通常総会を、「子育て世代の家づくりセミナー」終了後、同会場にて開催いたしました。小宮議長進行の下、第1号議案 平成19年度事業報告・収支決算報告、会計監査報告、第2号議案 平成20・21年度役員(案)承認の件、第3号議案 平成20年度事業計画(案)・収支予算(案)承認の件がそれぞれ発表され、各会員の方々に承認して頂き滞りなく閉会いたしました。

また、総会後場所を移り懇親会に移りましたが、アイリッシュスタイルのパブで和気藹々大変盛り上がり、時の経つのも忘れるほどでした。皆様お疲れ様でした。

中部事業支部 50周年記念事業 報告
 2008年5月17日
 名古屋大名古屋ビルディング12階 会議室

同 竹川 好郎



中京大学 坂井先生の講演

JID50周年記念事業の一環として、中部事業支部では、子育て世代の家づくりをテーマとして、ワークショップを含め3回にわたりセミナーを開催することになり、第1回のセミナーを開催いたしました。

第一部は講師に中京大学心理学部臨床心理学領域教授 坂井誠氏を迎え「親と子のメンタルヘルス」ーこどもの心を豊に育てるためにーをテーマに講演をお願いしました。家族ストレスについて・ストレスへの対処法・リクライゼーション(呼吸法)の実習・子どもの心を豊に育てる手立て・傾聴訓練の実習など5つのテーマにわけ、事例を含め大変興味深いお話を頂きました。

第二部は協賛のセキスイハイム中部(株)より田中勝哉氏、共催のセキスイインテリア(株)より高田真紀夫氏の両名を迎え「子育て世代の家づくり」「エコインテリアのすすめ」をテーマにそれぞれ、講演をお願いしました。50周年記念事業のスタートとして参加者も60名余りあり、有意義な時間を過ごすことができました。各講師のみなさま大変ありがとうございました。

JID後援による 「Best Design Osaka」の中間報告

清家 淳一

BDOスタッフ一同



タイトルデザイン「会話」



JID 後援をいただいた「Best Design Osaka」は、H20 年 4 月 11 日 (fri) に本町レストラン「ミッテ」にてキックオフフォーラム「JID 賞 2008 ビエンナーレ受賞者によるトークショー」を開催いたしました。2007 年 10 月に JID 選考委員会にて各賞が決定し、新年会当日授賞式が開催されて半年が経過しましたが、今回は関西のクリエイターの皆様 110 名以上にお集まりいただき、関西の受賞者お二人に発表の場を企画。「社団法人日本インテリアデザイナー協会」の存在と魅力をご理解いただきました。

■フォーラムテーマ：「インテリア視点の建築」

■パネラー：

＜大賞 錦綾幼稚園＞

小笠原絵理氏／間工作舎（上写真・左）

＜インテリアスペース賞 クローバーハウス＞

宮本佳明氏／宮本佳明建築設計事務所（上写真・右）

■コーディネーター：

JID 理事・関西事業支部 支部長 安藤真吾

■司会：JID 関西事業支部 副支部長 山本紗代子

続いて「レストランミッテ」にて、シャンパン片手にパーティーを開催（無料）。スクリーンには JID 会員八十氏の奥様より子画伯の絵をモチーフにしたタイトルをバックに、「ビートルズスケッチ」によるなつかしのビートルズナンバー演奏と、司会は JID 塚口真佐子会員のお洒落なトークで幕を開けました。

関西のクリエイター 150 人以上が集まり、建築家とクリエイターの会話や、参加企業 8 社の皆様とクリエイターの皆様との名刺交換シーンが随所で見られ、皆様に楽しんでいただきました。

次の企画は 6 月 20 日 (fri)。参加企業 8 社 8 名によるクリエイターセミナー「ミラノサローネを中心としたヨーロッパインテリア事情報告会」とパーティーを開催（150 人強の参加）、皆様の期待に応えています。

「社団法人 日本インテリアデザイナー協会」の存在が、お集まりのクリエイター及び企業の皆様に認知される事を願っています。

なお詳細は www.best-d.net 新着情報をご覧ください。

平成20年度関西事業支部 支部総会報告

関西事業支部 副支部長 山本 紗代子

6月7日(土)、20年度総会及び記念講演会を「ヤマギワ大阪 セミナールーム」をお借りし、開催しました。第1号議案から第5号議案まで審議し、承認されたことを報告致します。引き続き行われた、記念講演会の多田羅景太氏(工芸繊維大学大学院造形工学部 助教授)による「デンマーク近代家具デザインの歴史と現状」には会員、ACT会員はじめ55名の参加者があり、デンマーク家具をより深く掘り下げたお話は大変興味深いものでした。第3部の交流会は、場所を「ハートンホテル南船場」に移し行いました。安藤新支部長の挨拶から始まりました交流会は、酒井正人新理事長、USD-O(大阪デザイン団体連合機構)をはじめ他団体の代表者、新入会員およびACT kansai 会員も加わって33名の参加者で大いに賑わった楽しい会になりました。



JID-ACT kansai 報告

JID-ACT kansai 企画部 西村 沙和

今年度はACTのメンバーから4人が就職し、めでたく社会人となりました。それに伴い役員の引継ぎも行なわれ、4月からは新しいメンバーでスタートしました。

6月14日(土)には大阪産業創造館で新メンバーによる初めてのイベント ACT kansai 総会を開催、講演会や交流会も併せて楽しいイベントになりました。

次には夏に向けてのイベントも計画中です。夏らしく素敵な企画になればいいなと思っています。

これからも皆で楽しみながら活動していこうと思います。

今後とも ACT kansai を宜しくお願い致します。

関西事業支部企画 JID 50th 特別事業 フィンランド・デザインツアー 中間報告Ⅱ(訪問先)

関西事業支部 八十 常充

- ピラ・コッコネン：A・アアルトが作曲家コッコネンの為に設計。現在はヤルベンパー市の管理。
- アイノラ邸：シベリウスが妻アイノと半生を過ごした家、庭には二人のお墓がある。
- 老人施設：ヤルベンパーの老人ホーム。リビング&ダイニングキッチンを中心に個室6室で構成されたホームを見学。大きな食堂で入居者との昼食会を予定しています。
- ウォーネル夫妻のアトリエ：ガリ・ウォーネルは陶芸家でINAXのコンペで優勝。今は写真とプリント・アートの制作。妻エヴァー・ウォーネルはジュエリー作家。
- ウィットレスク：1900年初頭。エリエル・サーリネン、ヘルマン・ゲセリウス、アルマス・リングレンの三人の建築家の設計で三人の住まいとしても使われた。ヘルシンキ西方のキルコヌミ湖にある。
- A・アアルト自邸・アトリエ：ヘルシンキ中央駅からエスボー方向へ約5kmにある、自邸とアトリエ。
- ヘルシンキ(オタニエミ)工科大学：広大な敷地に赤レンガで統一されたキャンパス。A・アアルト設計の建物が多くある。扇形に広がったオーデトリウムと図書館が有名。
- オタニエミ・チャペル：1957年。カイヤ&ヘイッキ・シレン。ヘルシンキ工科大学学生寮の裏側にある。
- パイミオ・サナトリウム：アアルトチェアで有名なパイミオのサナトリウム。ラウンジで使われている。
- キアズマ：国立現代美術館。1998年。スティーブン・ホール。美術館全体がゆるやかにカーブし東側はくじらを連想せる。内部の展示室は壁と天井が一体となりカーブする壁天井とトップライトが、今までの美術館にないオーガニックな展示空間をつくっている。
- フィンランドアホール：アアルトの代表作の一つ。規則正しい窓割りの低層部のファサードが延びる中央部階段室やコンサートホールの天井桟敷の客席後部が3分割され、その部分が外部の白大理石張りの造形美になっていて面白い。
- テンペリアウキオ教会：1969年。ティモ&トゥオモ・スオマライネン兄弟。岩盤を掘ってむき出しの岩盤をそのまま内壁に利用、ドーム形のトップライトからの光が岩肌を浮き上がらせている。



1962年夏、阿波踊におよばれて— 浴衣姿の新居さん(右)と私

「ニーチェアX」と「オットマン」(1970年)



「新居猛さんを悼む」

島崎 信

新居猛さんと始めてお逢いしたその時の情景をそれから45年余りをすぎた今尚、鮮烈に記憶している。

それは1962年3月の徳島でのことだった。外国からの専門家招聘事業のひとつとして、デンマークのデザイナー、モーエン・コック氏(注1)と木材塗装のヨーゲン・レスレ氏の通訳兼解説者として2週間程度、日本各地を一緒に廻っての徳島入りをした夕刻だった。

産業奨励館だったか、徳島県下の物産を展示してある処に案内された。いわゆるお土産的な物産が、ガラスケースや陳列台にズラリと並べられている片隅に、居心地が悪そうに家具が5、6点置かれていた。

その中の2点の椅子を見て、私は思わず、「これは面白いデザインじゃないか!!?」とデンマークの2人に声をかけると、「いいデザインだ」と同意して手にとって、しげしげと見ていた。一脚はシートがキャンバスで、前後に折り畳める木製の折り畳み椅子(注2)で、他の一脚は、アルミのパイプで前後脚H字型の一本物に木の肘付きにL字形のアルミパイプにキャンバスを張ってシートと背にしたノックダウンの椅子(注3)だった。

このデザインはこれから発展性がある、どんなデザイナーかという問答に、同行していた県の職員が、「たしかデザイナー自身が作っているはずですが…」と頼り無げに答えていたその時に、「あ、この椅子をデザインした方が来ました」という。振り返って見ると長身細身の微笑を含んだ男性が近づいて来た。職員が、「この椅子をデザインしたアライタケシさんです」と紹介すると、表情も変えずに、「ニイタケシです」とその人ははっきりと云って、にこりと白い歯をのぞかせた。それから私とデンマークの2人は、新居さんの椅子2脚を手し、どれ丈と一緒に話し込んでいたのだろうか。他のお土産品には目もくれない我々は、「時間です」と次の予定にせき立てられながらも、尚話は続いていた。

日本各地を回って出逢った、当時の品質、デザインの悪い家具に辟易としていた我々にとって、この徳島で出逢ったまさかの

このデザインはシンプルであるだけでなく、正にオリジナリティのあるデザインだった。翌年再度デンマークを訪れた私に、彼の地の2人は、「あの徳島のトル(背の高い)チェアデザイナーは元氣か? 新しいデザインはどうだろうか?」と深い関心を示していた。それからの、私と新居さんのお付き合いは回を増しさまざまな事柄へと連なっていた。

新居さんは、デザインが、椅子が、本当に好きな人だった。片時も椅子のデザインを忘れることが無く、若い頃の剣道の習練のたまものともいえる凛とした姿勢と佇まいに加えて、年を忘れる程のフットワークの軽快さは、徳島から東京、大阪はいうに及ばず、アメリカ、ヨーロッパ、晩年には、「また中国ですか、ヴェトナムですか」と回を重ねること、何度と知れぬ。「見て聞いて学び考える」というその姿に、私はどれ丈刺激をうけ学んだことだろうか。

お逢いすれば、最初から椅子の話。ポケットから小さな紙切れを出すと、そこには椅子のスケッチやら、ディテールの図面がチョコチョコと描かれている。話は最後まで椅子の話。そういえば水之江忠臣さんも椅子の話ばかりだった。私の事務所の者が、椅子以外何の遊びの話もしない、私と新居さんの会話に半ば呆れながら、「本当に好きなんだ…」といていた。

新居さんのお名前と、デンマーク語の「新しい」という意味の言葉「ニユイ」をかけ合わせて「ニイ・チェア」と名付けるのにお手伝い出来たのも嬉しい思い出となった。

究極の折たたみ椅子を作りたいといわれた新居さんに、三重県の金属パイプ工場内に研究室をお世話して、さあこれからだ…といわれた矢先の突然の逝去は、惜しい、残念と、その言葉はない。

2007年10月5日、15時16分、急性敗血症で、新居猛さんは急逝された。87才。日本の優れた椅子のデザイナー。世界に誇れるデザイナーを失ってしまった。名作ニイ・チェアXをしのぐ究極の椅子は幻と終わってしまった。合掌。

注1) デンマークの建築家で家具のデザイナー。キャンバス地の

折たたみ椅子(1932年デザイン)は名作椅子として有名。

注2) 武蔵野美術大学美術資料館近代椅子コレクション収蔵。

注3) 後のニイ・チェア スタンダード(現在は生産されていない)

宮本茂紀の「もの思う もの作り」その3 物語を背負う椅子達 との出会い

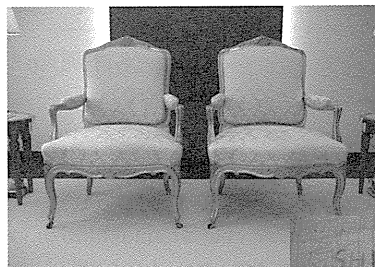
ミネルバ代表・家具モデラー 宮本 茂紀



半世紀あまり、椅子作りに関わり、多くの椅子を世の中に送り出してきた。一方、修復作業などを通して、物語や歴史を背負った椅子と出会う機会も多い。それらの椅子からは、ひとつの時代を背景にした人々の暮らしがかいま見え、その椅子と世の中との係わりを、生々しく読み取ることが出来る。あたかも椅子自体が、崇高な人格を持っているかのようにさえ思えてくる。「こんなぼろぼろな椅子だけど直りますかね？ お爺さんが使い、父が使っていた椅子で、我が家の守護神みたいな存在なので」。「足の弱い鳩山一郎が、時の大物政治家達と天下国家について議論交わす時に、何時もこの椅子に座っていました。この椅子はこのまま大事に保存しておいて、尋ねて来てくれたお客さんに座ってもらうために、全く同じ椅子を作って欲しい」。「小泉八雲や夏目漱石が、気取って記念写真を取ったときに使った椅子ですよ」。「鹿鳴館（明治16年落成）で使われていた椅子が、冷泉家に残っている。修復したい」。「この汚れは吉田（元首相）と俺（白洲次郎）の手垢の固まりだ、俺が生きている間は、傷みが進まないようにして欲しい」。いろんなドラマがある。昨年の秋、宮内庁が戦前作った椅子で、両殿下が使用するロココ調の椅子の修復を霞俱樂部から依頼された。この椅子がどのような年月を経てきたのかわからないが、繊細な彫刻に金箔が張られた美しい椅子である。細かな傷はあったものの、当時の輝きを偲ぶことができた。布は汚れているので張り替えることになった。上布、綿と剥がしていくと、その下に綿布が張ってあり、そこにローマ字で SHIYOWA 7 NEN D.HAYASHI T.HIRAWI と二人の名前が書かれていた。このサインを手がかりに、一人の椅子張り職人の足跡を追ってみた。戦前に宮

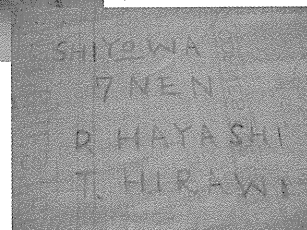
内庁の仕事をしている椅子屋は限られている。ほどなく「D.HAYASHI」さんにたどり着いた。

林さんは、大正元年東京生まれ。大正14年頃、東京の佐山製作所に椅子張りの徒弟に入った。佐山製作所で一人前の職人としてスタートして間もない昭和7年（22歳の頃）にこの椅子を仕上げている。昭和19年2月徴兵、20年5月25日フィリピン・ルソン島で戦死——以上は、「父の遺品は何もない」というご長男（別れたとき3歳）にうかがった話だ。ぼろぼろの綿布を届けた際に、聞かせてもらった。家族にとっては大切な遺品だろうと感じる。この椅子の運命と椅子作りに関わった一人の職人林さんの生涯を、一枚の布が教えてくれた。



張り地の下からでてきた綿布にあった、林さんのサイン。

▲今回修復した、宮内庁が戦前につくった椅子。木部は金箔張り、張り地は鮮やかな山吹色のロココ調。



モノを生み出し生産することの喜びは、そのモノが世の中や人々と係わりを持ち、存在しているというたしかな手応えにある。モノの生産手法がマニュアル化して、それがさらに加速していく現在。そのスピードが増すほどに、作る側も使う側も、モノに対する思いが希薄になりつつあるように思う。けれどそうやって生産されたモノ達も、歴史や物語を背負って存在するはずだし、そうあって欲しいと私は願う。急激にあらゆるものが生産され消費される時代だからこそ、歴史を背負い、物語を語れるモノ作りに関わっていきたく強く思っている。

梅田正徳デザイン「Orchid chair Ran」

雄蜂を誘うために、雌蜂に扮したという蘭の花をモチーフにしたチェア。充填材や縫製、張り…細部にまでミネルバのノウハウが生きている。取扱：トーヨーキッチン&リビング
TEL: 03-5766-8249 URL: <http://www.toyokitchen.co.jp>



世界のソファづくりに精通する

MINERVA

ミネルバ

日本では数少ないソファの試作開発の会社です。

これまで自動車のシートから、世界の見本市に出展するメーカーの製品など、幅広く製作してきました。

材料選び、加工、仕上げまで、確かな技術と幅広いネットワークであなたの創造をトータルにサポートします。

伝えたい気持ちを持つすべての人のそばに、いつもミネルバがいます。

ミネルバ 電話 03-3785-2337
info@minerva-jpn.co.jp <http://www.minerva-jpn.co.jp>

事務局からのお知らせ

会員異動のお知らせ

※「会員名簿」該当ページをご訂正ください

◆正会員

会員番号1218 青野 剛三 会員名簿・関東p.2
・E-mail変更 gozo@geo-paradise.com

会員番号0481 海老沢 宏 会員名簿・関東p.4
・勤務先住所 〒151-0064 東京都渋谷区上原1-1-8
変更 代々木公園セントウエストテラス 3F

会員番号0227 川上 玲子 会員名簿・関東p.5
・勤務先住所 〒108-0022 東京都港区海岸
変更 3-20-20-18F 1805号

会員番号0484 清水 忠男 会員名簿・関東p.7
・勤務先退職 仮勤務先E-mail: tad@tadaoshimizu.jp
自宅E-mail: tad@rg8.so-net.ne.jp

会員番号0247 中川 帛子 会員名簿・関東p.9
・E-mail変更 n-kinuko@lgj-ne.com

会員番号0460 玉置 豊始 会員名簿・関西p.17
・E-mail変更 tamaoki.toyoshi@t-fw.co.jp

◆賛助会員

会員番号3179 株式会社サカイ 会員名簿・賛助p.27
・担当者E-mail変更 koichi.hamamoto@sakairib.com

本部事務局職員の異動について

2006年9月より本部事務局職員として勤務いたしておりました新井和香世さんが、今まで勉強してきたインテリアデザインの世界に進むために退職することになりました。今後はデザイン界での活躍と、将来はJID 会員に期待したいと思います。在職中は会員の皆様方の暖かいご支援をいただき有難うございました。

後任には山岸綾子さんが着任いたしておりますので、前任者同様ご指導ご支援をいただきたく、お願い申し上げます。
(事務局 山岸 綾子)

短い期間でしたが、様々な方にお会いし、大変貴重な経験をさせていただきました。皆様の温かいご支援に心から感謝致します。
(新井 和香世)

至らないところがたくさんあると思いますが、頑張りますのでこれから宜しくお願い致します。(事務局 山岸 綾子)

新会員 紹介 正会員

①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者

④勤務先・事務所 ⑤自宅



①天野 善啓
あまの よしひろ

②1283 (関東事業支部)

③村口 峯子・峰尾 武

④アmanoデザイン事務所

〒141-0001 東京都品川区北品川5-7-14-406

Tel: 03-3446-7085 / Fax: 03-3446-7086

E-mail: amano-y@nifty.com

⑤同上



①赤嶺 剛
あかみね つよし

②1284 (関東事業支部)

③山永 耕平・峰尾 武

④有限会社スタプランニング

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀2丁目7番3号

Tel: 098-833-5519 / Fax: 098-833-5526

E-mail: t-akamine@stta-p.com

⑤同上



①青木 慎次
あおき しんじ

②1285 (関西事業支部)

③清家 淳一・峰尾 武

④デザインスープ

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-4-7 飛鳥ビル

Tel: 06-6265-1900 / Fax: 06-6265-1901

E-mail: aoki@designsoup-web.com

⑤〒586-0023 大阪府河内長野市野作町12-33

Tel: 0721-56-5815 / Fax: 0721-56-5815



①足永 和子
あしえ かずこ

②1286(関西事業支部)
③清家 淳一・安藤 眞吾

④ダックネットワーク

〒530-0043 大阪市北区天満2丁目12-3 南末広ビル8-E
Tel:06-6355-7586/Fax:06-6355-7587
E-mail:ashie@xb4.so-net.ne.jp

⑤〒573-0083 大阪府枚方市茄子作北町61-18
Tel:072-852-8113/Fax:072-852-8113



①佐藤 由紀子
さとう ゆきこ

②1287(関東事業支部)
③菅野 民子・安竹 麻智

④アカンサス

〒135-0091 東京都港区台場2-2-1501
Tel:03-5500-0953/Fax:03-5500-0953
E-mail:aconthus@kd6.so-net.ne.jp

⑤同上



①山内 恒男
うちやま つねお

②1288(関西事業支部)
③小宮 容一・清家 淳一

④株式会社アイランドデザイン

〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-1-14
サンエポートビル605
Tel:078-271-3398/Fax:078-271-3397
E-mail:yamauchi@island-design.co.jp

⑤〒658-0032

神戸市東灘区向洋町中5丁目11-501-1802
Tel:078-858-2617/Fax:078-858-2617

新会員 紹介 賛助会員

※賛助会員数68社(平成20年6月現在)

特定非営利活動法人 会員番号3199
医療ネットワーク支援センター

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-45-2-301
Tel:03-5333-4771/Fax:03-5333-4768
担当者:監事 藤城 功
E-mail:hitomi@medical-bank.org
推薦者:小野 由記子

株式会社シーズアイ 会員番号3200

〒151-0064 東京都渋谷区上原3-1-16 中外ビル1F
Tel:03-5478-7118/Fax:03-5478-7119
担当者:デザイナー 岡 直樹
E-mail:info@cseye.co.jp
推薦者:小野 由記子

株式会社イケダコーポレーション 会員番号3201

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-13 北水ビル8F
Tel:03-3544-4453/Fax:03-3544-4450
担当者:安田 辰徳
推薦者:酒井 正人

株式会社遠藤照明 会員番号3202

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-6-19
Tel:06-6267-7035/Fax:06-6267-7036
担当者:インテリア家具事業部 大阪営業課 課長 下村 宗生
推薦者:小宮 容一

ドゥーマンズ株式会社 会員番号3203

〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5
アトムCSタワー 6F
Tel:03-5733-6820/Fax:03-5733-6821
担当者:取締役経営企画室長 浜端 幹夫
E-mail:hama@domans.co.jp
推薦者:本部事務局

株式会社大富 会員番号3204

〒666-0002 兵庫県川西市滝山町14-7
Tel:072-759-4566/Fax:072-759-7764
担当者:阿部 稔
E-mail:daitomi@polka.ocn.ne.jp
推薦者:清家 淳一

今後のご発展とJID活動でのご活躍を期待しています。

JID news

企画・編集：本部広報委員会

JID News 担当理事 安藤眞吾
JID News 委員長 八十常充
// 委員 小宮容一
// 関東事業支部 日方一城(代行)
// 中部事業支部 杉崎晃久
// 関西事業支部 山本紗代子
// 九州事業支部 下田隆

—あとかき—

JID News 担当の役目を、新しく本部広報担当理事を引き受けられた安藤眞吾氏に引き継いでいただき嬉しい限りです。皆様のご協力に篤く御礼申し上げます。振りかえると東京ではなく関西での編集をお引き受けし不安が一杯でしたが、関西には素晴らしい人材の宝庫だった事に改めて感謝しました。編集委員長をお引き受けいただいた八十常充氏をはじめ編集委員の山崎晶氏(残念ながら退会)その他会員がそのつど参加していただき、編集会議を盛り上げていただきました。編集デザイン・印刷に関しては西尾直氏の頑固なまでのご意見は出版に対しての姿勢を学びました。今後は一元化された JID News とホームページの明確な住み分けで、リアルタイムな情報とペーパー情報を駆使し「社団法人日本インテリアデザイナー協会」を世に問いかけることと、デザイナーがデザインすることの喜びを情報発信していただきたい。会員・支部担当者・本部理事の皆さんが記者となって情報をお送りください、よろしくお願いします。有難うございました。 清家 淳一

□次号スケジュール

- ・編集(企画)会議 8月5日
- ・エントリー締切日 8月12日
- ・原稿締切日 8月29日(厳守お願いします)
- ・編集(校正)会議 9月16日
- ・発行日 9月末日

* member's SALON はみなさんからの投稿をお待ちしています。デザイン情報、ご意見、エッセイや地域での情報などをお寄せ下さい。

No.240

発行日：平成20年6月30日

編集デザイン：西尾直事務所
印刷：株式会社岡本印刷所